



第 27 回例会

平成19年1月17日(水)
サンパレス福島

本日のプログラム

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング 奉仕の理念
3. 四つのテスト
4. 来訪者の紹介と会長挨拶
5. お食事をどうぞ
6. ゲストスピーチ
二本松あだたら RC 鈴木弘治会員
二本松あだたら RC 渡辺 章会員
7. 各委員会報告
8. 閉会点鐘



会 長 挨 拶

齋藤 ミヨ会長



お客様のご紹介と挨拶を申し上げます。本日ゲストスピーカーとしてお越しいただきました、二本松あだたら RC 鈴木弘治会員。二本松あだたら RC 渡辺章会員です。

さて、正月松ノ内も過ぎ新たな2007年度を踏み出しましたが雪らしい雪も見られぬままに三月上旬の気温とのこと、まさに暖冬で温暖化に歯止めがとどまらない状態となっております。職業上大変困っている方、又仕事の力となっている皆様々と思っておりますが、日本の美しい四季折々がどうなっていくのかと大変不安を感じております。

本日は淡路・阪神大震災から12年目の日、死者6,434人と尊い命が一瞬に奪われてしまいました。災害は忘れた頃にやって来ると云われております。これを機に自然災害の恐ろしさを家族で話し合いが出来れば幸いと存じます。

さて、2月は世界理解と平和の週間となっております。現在地球温暖化に対処するさまざまな二酸化炭素削減を義務づけて歴史的にも第一歩を踏み出しております。未

来の子供達の為にも美しい水、きれいな空気を守り、地球にやさしいエネルギーを私達一人一人が常に心に秘めて何から出来るのかと真剣に考えていかなければならないと思っております。

さて、本日は二本松あだたら RC パスト会長鈴木弘治会員による「戊辰戦争～米沢への道」と題して歴史を忍びたいと思っております。よろしくお申し上げます。

ゲストスピーチのご紹介
野地利雄ロータリー情報委員会委員長



今日は、ロータリー情報委員会として、ゲストスピーチをお招きしました。一昨年、会津白虎隊記念館長の早川さんより講演を頂きました。皆さんもご存知とは思いますが、今回は、身近な二本松藩の少年隊のお話を講演して頂きたいと思っておりました。

戊辰戦争に関わる、5年～8年前後の話となるため、講演時間が大変長い時間が必要ですが、前回の白虎隊の講演と同様に、ロータリーの会合の時間の調整上、大変スピードでストーリーが進むと思っております。ご静粛の程、よろしくお願ひします。

◎鈴木弘治会員のプロフィールをご紹介します。嘉澄屋呉服店の店主さんです。

H5.6.30入会のチャーターメンバーとして、初代幹事、3代目の会長を経験され、良き理解者・時に良き指導者として、いつもあたたかく会員をサポートしてくれるお方です。

昨年は〔SAA委員長〕という立場でもあった為、毎週会場設営には早く会場入りし、職務を全うされておりました。今年度は、〔ロータリー情報委員長〕としても更なるアイデアを盛り込み活動されております。

「道の記」を訪ねて
二本松あだたらロータリークラブ 鈴木弘治様



みなさん今日は、二本松あだたら RC の鈴木弘治です。

去年の二本松 RC は団体で東京 RC にメーキャップを行いました。帰ってきて、報告を聞いたのは「東京 RC はスピーカーが30分で終わった」と関心し

ていました。私は今から5年前に食道癌の手術を受けましたがこうして丈夫です。

福島に関連ある米沢街道について話をしたいと思います。奥羽越列藩同盟は、秋田・三春が脱退していく中、二本松は戦いの勝敗に関わらず、武士の約束を守る為戦いました。戊辰戦争の戦死者は、会津藩が約2,800人、仙台が731人、二本松・十萬石は338人、庄内・長岡・米沢・福島は5人でした。

今から138年前の慶応4年、日本を二分した戊辰戦争は、長州・薩摩を中心とした西軍が会津藩憎しとばかりこの奥羽の地に攻込んで来た。これに対し奥羽の諸藩は仙台・米沢を筆頭に「奥羽越列藩同盟」を結成し、これを迎え撃つこととなった。白河・棚倉を落した西軍は三春を徑て遂に二本松城下に迫って来たのである。

藩主 丹羽長国公と久子夫人と三人の娘。それに長国公母堂 麗性院はそれぞれに僅かの供と共に7月27日の真夜中、米沢を目差して二本松を出発したのである。落城を目前にしての悲しく哀れな避行の道中日記は久子夫人によって格調ある文と和歌によって綴られている。題して「道の記」この道は江戸時代の米沢街道で、現在も所々確認することができる、この道を辿ることとした。「ふたもとの 松のやかたを夜すがらにあとに見なして ゆくぞかなしき」

7月27日夜12時 宮下御殿を出発 鉄扇橋 吉倉を通過して水原村の名主 丹野又市方にて朝食 大森村にて昼食州川を渡って夜9時庭坂村の清水寺に着く、「す川とかいひし渡しを越ゆる身の あはれにつらき うき世とぞ思ふ」29日午前10時頃南の空に落城の煙を見る、午前4時清水寺を出発 かりがらしという急な坂道を登り村雨降りしき中 夜8時李平の宿に着く。「夕ぐれはるかになびく煙をば みるにつけても哀れそひつつ」8月1日午前2時 李平にて長国公 麗性院一行と合流 朝6時李平を出発 米沢領産ヶ沢に着く ここには関門があって・・・「我公はじめうち揃はねば米沢公には通し給はぬ と聞く 待ちけること五ツ頃より午の刻にもなりなむ、折から風さむく空かきくもりて村雨の降り出でければ猶さら物かなしう・・・」午後2時板谷の宿に着く 大阪屋久七方に宿泊。

8月2日板谷宿出発 板谷峠を越える「きのうの雨に道いとはかどらず 聞きしにまさるてふ箱根の山も及ぶまじきと思はれ あへぎあへぎ歩み行く・・・」午後2時大沢の宿着 齋藤四郎右工門方にて昼食したため いそぎ立出す。

夜8時米沢着・・・「やうやう此処に到着きしに 此処は 神明の神主ときく 今宵よりは ここをとまりと定め やうやう心もやすなひぬ・・・」8月9日浄珠院と菊子 久美子は仙台へ 11日母君妹君は会津へうつる、「ただ涙のみ先立ちしばしの別れの袖をしぼりぬ」ここで 程もなく 峯子の婿養子に上杉齋憲の九男 頼丸君がきまる。(明治15年成婚)「かくばかり厚き情にふたもとの まつのみどりも色をそへつつ」十五夜の月をながめ「かくばかり かわり行く世ぞうらめしき さやけき月を見るにつけても」

8月23日母君妹君会津より檜原峠を越えて29日正午米沢へ帰る。「長月の空さへいとどすみわたり かげもなつかし ふたもとのやど」9月15日長国公久子 米沢を出発し帰路につく 大沢の宿に泊る、16日朝出発板谷峠を越え 板谷宿へ泊る。17日李平を通過して庭坂へ泊る。18日庭

坂を立ち水原へ 水原に二泊。9月21日帰国 申の刻 大隣寺に入る。・・・麗性院は龍泉寺へ 「けふはまた我住なれしふたもとにかへり行く身もあはれなりけり」明治元つちのえ辰の七月二十七日より道の記。で終わっている。

今日のメッセージ

- 齋藤 ミヨ：二本松あだたらRCパスト会長鈴木弘治様のスピーチを記念して(黒羽好夫、紺野仁昭、穴戸清和、富田健三郎、博多義雄)
- 安齋常三郎：県文化賞(建築) 施工者部門受賞の祝いとして(県内六社)
- 福田 順一：12年前の阪神大震災、今年は災害が無いことを祈って。

今月のプログラム

- 1月31日(水) ゲストスピーチ
パストガバナー 佐原元様
- 2月 1日(木) 福島21RC創立6周年記念例会
18:30～
- 2月 1日(木) IAC国際理解研修
～ 2日(金) (天栄村プリティッシュヒルズ)
- 2月 7日(水) 佐藤誠会員スピーチ

集担当 齋藤 実